

# 2014年3月期第2四半期 (2013年4月～9月期) 決算説明会

2013年11月11日

株式会社日本エム・ディ・エム

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 目次

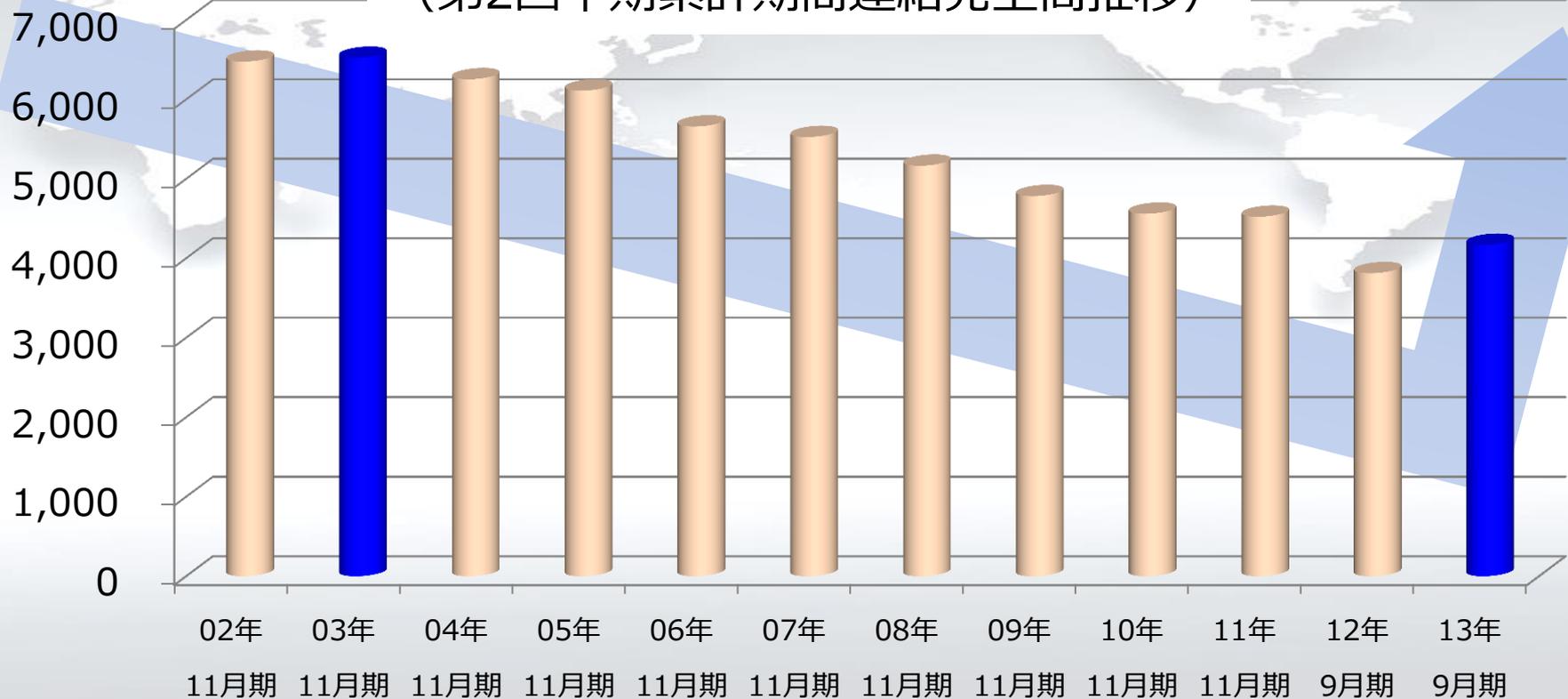
1.	2013年9月期連結決算結果		
	①成長路線への転換	...	3
	②連結損益計算書	...	4
	③主要品目別連結売上高	...	5
	④前年同期営業利益比較分析	...	6
2.	2014年3月期重要施策		
	①計画対比	...	7
	②取組み	...	8
3.	2014年3月期連結業績予想	...	9
4.	Other Topics		
	①骨接合材料第2四半期累計期間比較	...	10
	②18ヶ月連続、米国販売前年同月増を達成	...	11
	③ArthroCare社とのスポーツ整形分野 電気手術器械の販売契約締結	...	12
	④脊椎固定器具自社新製品 『Pagoda スパイナル システム』薬事承認取得	...	13

# 1.2013年9月期連結決算結果①

## 成長路線への転換

(単位：百万円)

(第2四半期累計期間連結売上高推移)



# 1.2013年9月期連結決算結果②

## 連結損益計算書

(単位：百万円、%)

	2013年9月期		前年同期比増減		2012年9月期	
	実績	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	4,168	100.0	+356	+9.3	3,812	100.0
売上原価	1,204	28.9	△ 234	△ 16.3	1,438	37.7
売上総利益	2,964	71.1	+590	+24.9	2,374	62.3
販管費	2,921	70.1	+318	+12.2	2,603	68.3
営業利益	42	1.0	+271	黒字化	△ 229	△ 6.0
営業外損益	△ 88	△ 2.1	+66	—	△ 155	△ 4.1
経常利益	△ 45	△ 1.1	+338	—	△ 384	△ 10.1
特別損益	△ 22	△ 0.5	+4	—	△ 27	△ 0.7
当期純利益	△ 20	△ 0.5	+286	—	△ 307	△ 8.1

# 1.2013年9月期連結決算結果③

## 主要品目別連結売上高

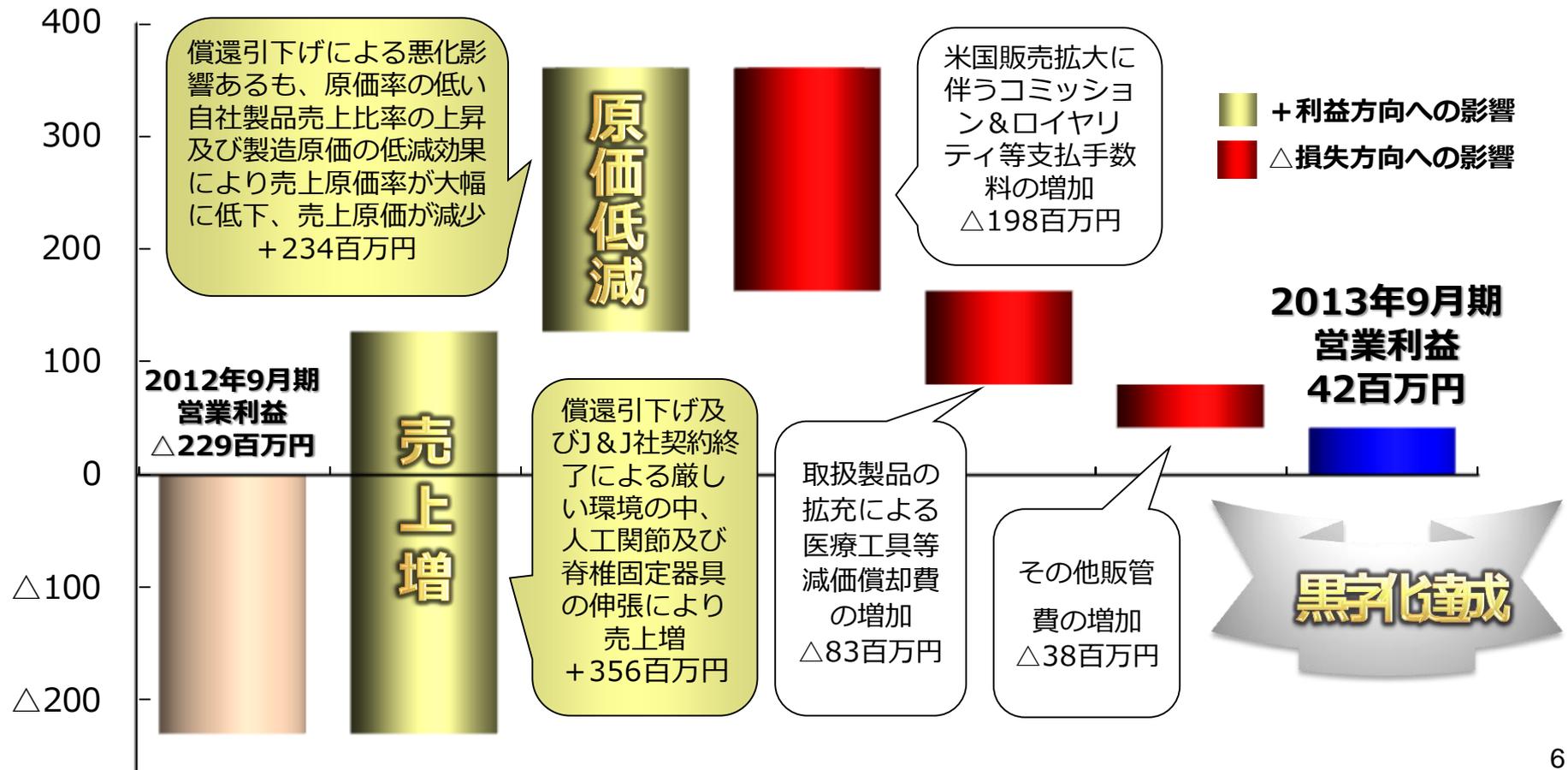
(単位：百万円、%)

	2013年9月期		前年同期比増減		2012年9月期	
	実績	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内販売	2,850	68.4	△ 167	△ 5.6	3,018	79.2
骨接合材料	935	22.4	△ 334	△ 26.4	1,269	33.3
人工関節	1,412	33.9	+178	+14.5	1,234	32.4
脊椎固定器具	260	6.3	+64	+33.0	195	5.1
その他	242	5.8	△ 76	△ 23.9	318	8.3
米国販売 (注)	1,318	31.6	+524	+66.0	794	20.8
人工関節	1,215	29.2	+512	+72.9	703	18.4
脊椎固定器具・その他	102	2.5	+11	+12.9	91	2.4
合計	4,168	100.0	+356	+9.3	3,812	100.0
自社製品売上高	3,079	73.9	+1,054	+52.1	2,024	53.1
(注) 米国販売額 (千ドル)	13,454		+3,454	+34.5	9,999	
(注) 換算レート (円)	97.99				79.42	

# 1.2013年9月期連結決算結果④

## 前年同期営業利益比較分析

(単位：百万円)



# 2.2014年3月期重要施策①

## 計画対比

2014年3月期第2四半期累計期間は、売上高が順調に推移し、自社製品の製造原価の低減効果及び販管費を計画以上に抑制したことで、当初営業損失計画から一転して営業利益の計上となり黒字転換を達成した。経常損失及び当期純損失は、上記影響により当初計画の損失幅が大幅に縮小した。

(単位：百万円)

連結	2014年3月期 第2四半期累計期間 計画	2014年3月期 第2四半期累計期間 実績
売上高	4,150	<b>4,168</b>
営業利益	△ 150	<b>42</b>
経常利益	△ 200	△ <b>45</b>
当期純利益	△ 150	△ <b>20</b>

## 2.2014年3月期重要施策②

### 取組み

#### 拡販およびコスト削減

- 医療従事者へのエデュケーションプログラム実施及び主要在庫拡充により繁忙期への対応準備完了
- スポーツ整形分野電気手術器械の販売開始(4.Other Topics③) ▶
- 脊椎固定器具自社新製品の薬事承認取得(4.Other Topics④) ▶
- 内製化及び海外外注先の活用等により製造原価を低減
- サービスレベルを維持した経費削減を達成

#### 海外市場の強化

- 新規顧客開拓の進展により成長継続(4.Other Topics②)
- 中国代理店候補先と交渉継続中

#### SCMの強化

- 業務委託を推進し、効率化施策継続実施中

# 3.2014年3月期連結業績予想

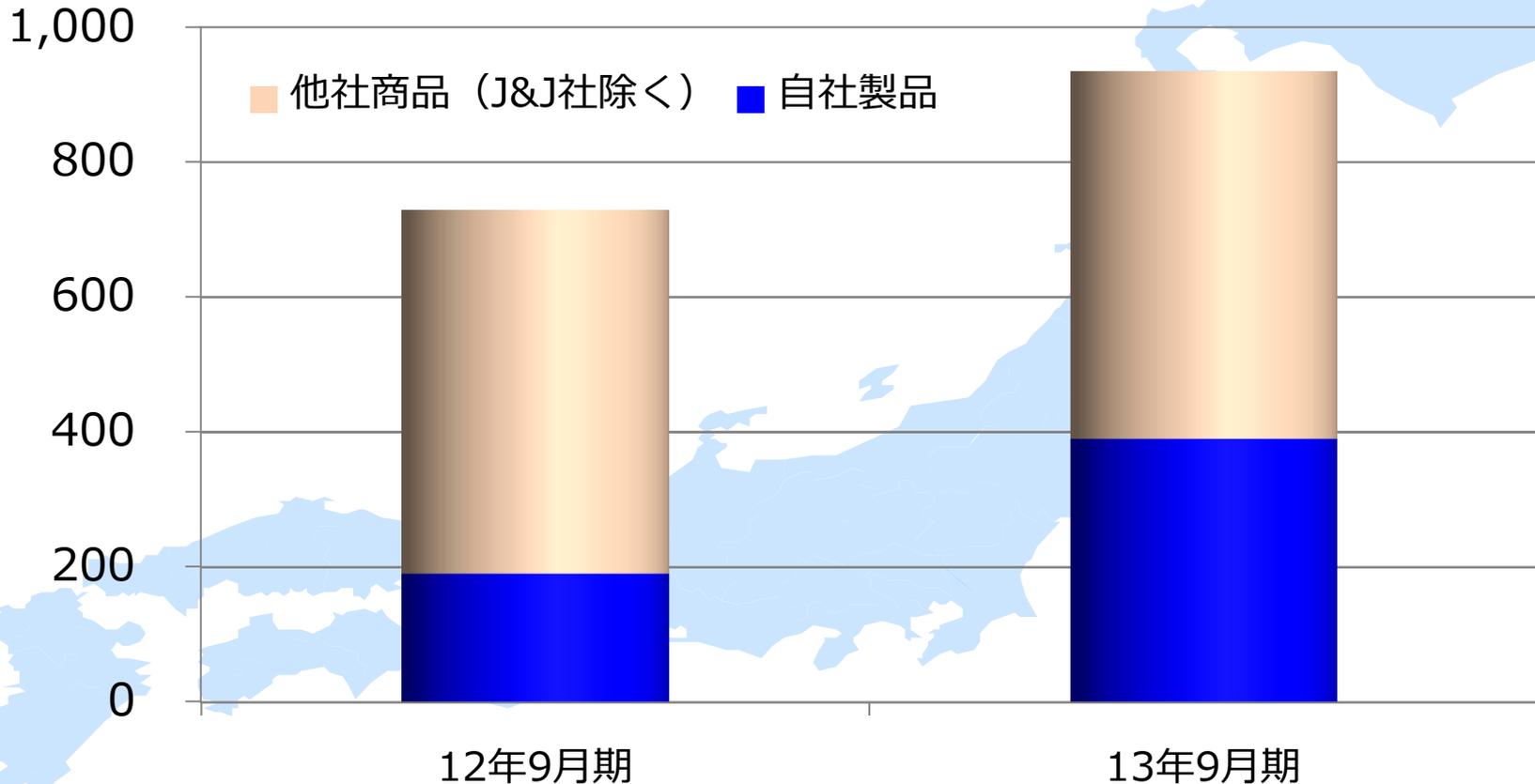
(単位：百万円、%)

	2014年3月期		前期比増減		2013年3月期	
	予想	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	9,400	100.0	1,265	15.6	8,134	100.0
売上原価	2,860	30.4	23	0.8	2,836	34.9
売上総利益	6,540	69.6	1,242	23.4	5,297	65.1
販管費	6,000	63.8	549	10.1	5,450	67.0
営業利益	540	5.7	692	黒字化	△ 152	△ 1.9
営業外損益	△ 100	△ 1.1	143	-	△ 243	△ 3.0
経常利益	440	4.7	835	黒字化	△ 395	△ 4.9
特別損益	△ 60	△ 0.6	4	-	△ 64	△ 0.8
当期純利益	200	2.1	597	黒字化	△ 397	△ 4.9

# 4. Other Topics①

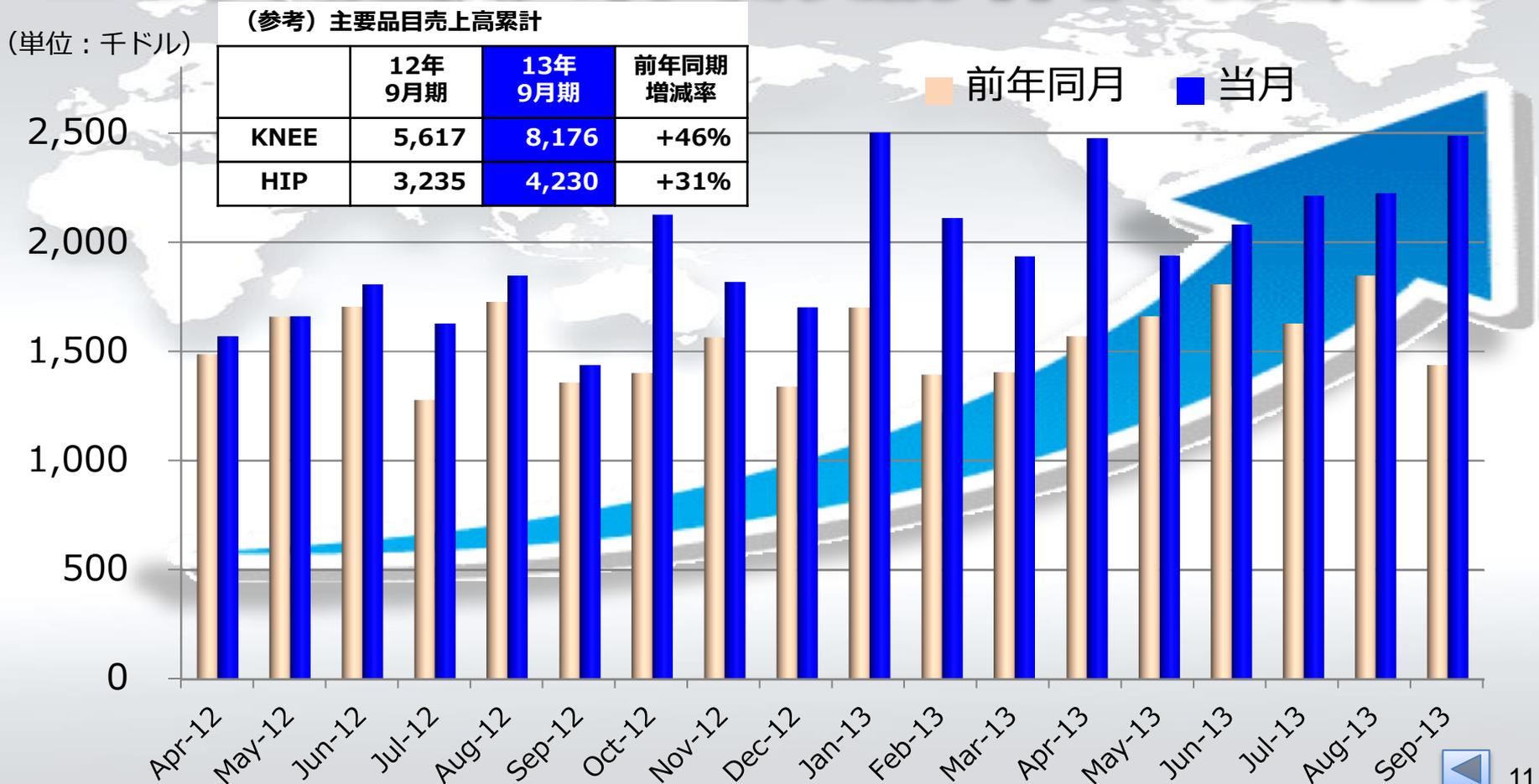
## 骨接合材料第2四半期累計期間比較

(単位：百万円)



# 4. Other Topics②

## 18ヶ月連続 米国販売前年同月増を達成



# 4. Other Topics③

## ArthroCare社とのスポーツ整形分野 電気手術器械の販売契約締結

幅広い疾患並びに多様化する医師をはじめとした医療従事者のニーズに応えるべく、昨今の整形外科分野で需要の高い低侵襲手術に使用する関節鏡周辺機器（スポーツ整形分野）を拡充し、前期より販売を開始したカールストルツ社製関節鏡製品とのシナジー効果を大いに期待し、更なる事業の拡大を図る。

カールストルツ社製  
内視鏡システム



ArthroCare社製  
電気手術器械

RF Wands 先端



システム全体  
(ATLAS R System)



RF Controller  
(Quantum™ 2 System)



# 4. Other Topics④

## 脊椎固定器具自社新製品 『Pagoda スパイナル システム』 薬事承認取得

毎年伸張し続けている整形外科市場の中でも有望な脊椎固定器具市場において、脊椎の胸腰椎部に生じる椎体骨折及び変性疾患（脊柱管狭窄症、変性側弯症、腰椎すべり症、腰椎分離症等）に使用する製品で、前期より販売を開始した「Vusion OS インターボディ Cage」及びその他の脊椎固定器具製品とのシナジー効果が大いに期待できる。

12年10月  
Vusion OS インターボディ Cage



Pagoda スパイナル システム

